

競技上の注意事項

1 競技要領と競技方法

- ・ 本大会では、クラス S/SB/SM1～S/SB/SM 14 は WPS 水泳競技規則による。国際クラスに該当しない視覚障がいと肢体不自由の選手のクラスは、クラス S/SB/SM 21 として実施し、WPS 水泳競技規則を準用する。S/SB/SM 15 は FINA(国際水泳連盟) 競泳競技規則による。
- ・ WPS 水泳競技規則は、WPS ホームページ(<http://www.paralympic.org/swimming/rules-and-regulations>) に掲載されている。
- ・ 内容の主なものについては日本身体障がい者水泳連盟(JPSF) ホームページ(<http://paraswim.jp/>) 掲載「2019 年度 JPSF 競技運営指針 競技規則」の項目を参考にされたい。(HP ニュース 2019.5.31)
- ・ 本大会は 3 日間開催でそれぞれの日で予選・決勝を行う。全ての選手は、予選を泳がなければ、クラス別決勝レースに出場できない。
- ・ 決勝レースには、予選において上位 8 位までの選手が出場できる。ただし、予選出場者が 8 名以下の種目の競技は、予選において標準記録を突破した選手のみが、決勝レースに出場できる。
- ・ オープン競技(身体 19 歳以下の 50m 自由形)は、予選のみとし、決勝レースは行わない。(表彰なし)
- ・ 決勝進出は、同記録で予定人員を超えた場合、スイムオフを行う。該当する選手は、その種目結果の公式掲示時間から 15 分以内に本部に来ること。なお、補欠が同記録で複数いる場合は、抽選を行う。
- ・ 計時のバックアップは半自動計時装置を使用する。
- ・ ゴールタッチはタッチ板の有効面に確実にタッチすること
- ・ バックプレート、バックストロークレッジ付のスタート台を使用する。調整は各自行い、確実に固定されていることを確かめること。
- ・ 予選は組のみの紹介、決勝は選手紹介を行う。決勝はゲート紹介入場とする。
- ・ 失格による抗議は、公式結果公表後 30 分以内に所定の様式で審判長あてに供託金費用 10,000 円を添えて申請すること。(失格の理由を聞くことは抗議ではない。)抗議が却下された場合、供託金は JPSA の所有となる。
- ・ 本競技会では上訴は、大会総務で行い、上訴審判団を設置しない。

2 スタートリスト

- ・ 予選のスタートリストは、選手受付時に配布する。決勝のスタートリストは予選終了後、速やかに総合受付および 3 階エレベーター横に掲示する。
- ・ 予選は、種目ごとにエントリータイム順に原則として女子・男子の順に行う。
- ・ 決勝は、種目ごとに原則として女子・男子、クラス順に行う。

3 招集

- ・ 選手は、レース開始予定時刻の 15 分前までに招集所に行かなければならない。なお、棄権の場合は、レース開始予定時刻の 1 時間前までに招集所に届けること。

4 デッキアクセス等(介助申請)

- ・ スタートリストにコードオブエクセプション(以下 CoE とする)「A」, 「T」, 「Y」の記載がある選手は、必要な介助のために介助者が競技エリア内に入場できる。これらの CoE を持たない選手においては、介助者が競技エリア内に入場するためには、各セッション開始時刻の 1 時間前までに競技エリア内入場申請をし、認められなければならない。また、競技役員に介助を依頼する場合にも、その旨の申請(介助者等サポート願い)が必要である。(申請用紙は総合受付で配布、招集所へ提出) なお、S14 クラスの介助申請は認められない。
申請用紙は JPSF ホームページ(<http://paraswim.jp/>)からもダウンロードできる。

5 スタート

- ・ スタートは 1 回のみとし、やり直しは行わない。他の選手がフォルススタートをおこなった場合でも、出発合図員の号砲でスタートすること。スタート合図は、英語(「Take your marks」)で行う。
- ・ 水中スタートをする選手は、審判長の笛の合図で水中に入り、競技規則に沿ったスタート姿勢をとること。なお、プール横から入水する選手は、予選にあつてはレース組の紹介後、決勝にあつてはゲート入場後、自レーンで衣服を脱ぎ、速やかにプール横に移動すること。
(なお、予選では選手紹介は行わないので、レース組数の紹介が終われば、速やかに移動すること。)
- ・ 聴覚障がいの選手は、スタート台に上り、少なくとも一方の足の指を台の前縁にかけた後、直ちに出发合図員を見ること。

6 ゴール後は……

- ・ 全選手が泳ぎ終わるまで自分のレーンで待機するか、自レーンのスタート台横から退水すること。待機した選手は、全選手が泳ぎ終わった後、1~4レーンの選手は原則として1レーン側のプールサイドから、5~8レーンの選手は原則として8レーン側のプールサイドから退水すること。

7 視覚障がいの選手は……

- ・ クラス S/SB/SM 11 で CoE(RE)「B」の選手は、透けて見えない黒のゴーグルを着用すること。競技終了後、プールサイドで確認する。
- ・ クラス S/SB/SM 11 の選手は、ターンとゴールの際、タッパーが競技者にプールの端に近づいたことをタッピングにより、知らせなければならない。クラス S/SB/SM 12・S/SB/SM 13 の選手にはタッピングの義務はないが、タッピングをしてもかまわない。但し、競技者がプールの端に近づいたことを音声によって知らせることは許されない。競技役員はタッピングを行なわないので、タッピング棒ならびにタッパーは各自で用意すること。

8 手話通訳者

- ・ 手話通訳者は、招集と表彰場所に配置する。

9 表彰

- ・ 表彰は、決勝のレース終了後、各クラス3位入賞者までをまとめてスタート側プールサイドで行う。ただし、決勝進出者が2名までの場合は1位のみ、3名の場合は2位までメダルを授与する。
- ・ 記録証を完泳した選手に授与する。記録証は総合受付で渡すので、参加当日の全競技終了後1時間後までに各自取りに来ること。(記録証の郵送は行わないので各自留意すること。)
- ・ オープン競技にはメダルは授与されず、記録証のみ授与する。

10 記録速報の掲示

- ・ 記録の速報は、3階エレベーター横に掲示する。

11 練習について

- ・ メインプールは、20日13時～18時(レーン指定、水深2.0m)、21日～23日は、8時から競技開始時刻20分前まで使用できる。予選終了後から決勝競技開始20分前までは決勝進出者のみが使用できる。ただし21日は開始式を行うため14時50分までとする。水深は2.0mである。
- ・ サブプールは、21日～23日の8時から決勝終了後30分まで使用できる。※20日は使用できない。

12 ドーピング

- ・ 本大会ではドーピング検査が実施される。
- ・ ドーピング検査の結果、陽性反応となり違反が認められた場合は、記録は認められず、メダルは返却しなければならない。

13 水着・所属表示等について

- ・ 本大会の水着に関する規程は、原則としてすべてFINA及びWPSの競技規則による。選手はFINA公認の水着を着用すること。水着のチェックは招集所で行う。規定に外れる水着を着用して泳いだ場合の記録はすべて参考記録扱いとなり、決勝への出場はできない。着用できる水着は1枚のみとし、水着の重ね着は禁止する。水着へのテーピングおよび2次加工は禁止する。ただし、障がい上の理由でFINAマークのついていない加工された水着またはFINAマーク剥離の水着を着用する場合は、事前に大会本部に届け出て、許可を受けなければならない。
- ・ 競技エリアで着用するユニホーム等の表示は、介助者、スタッフを含め次のもの以外は認められない。
①自分の氏名、所属の名称やマーク、②国旗・国または地域の名称、都道府県や市町村の名称やマーク、
③公式競技会および公認競技会のシンボルマークや主催者が認めたもの、④水着、ウェア等のメーカーロゴ・マーク、⑤事前に届出承認がされている、スポンサーロゴ。それぞれの大きさと数については、【表1】のとおりとする。

【表1】

マークの種類/用途	水着についてよい大きさと数	ウェアについてよい大きさと数	その他のものについてよい大きさと数
自分の氏名, エントリーした所属の名称, マーク, 国旗・国または地域等の名称やマーク, 公式・公認競技会のマークや主催者が認めたもの。	50 cm ² 以内で1か所。	大きさ, 数に制限なし。	大きさ, 数に制限なし。
メーカーのロゴ・マーク	メーカーロゴまたはマークは30 cm ² 以内で1か所。	メーカーロゴは40 cm ² 以内で1か所。マークは20 cm ² 以内であれば数に制限なし。	メーカーロゴは20 cm ² 以内で1か所。マークは20 cm ² 以内であれば数に制限なし。
事前承認されたスポンサーロゴ	30 cm ² 以内で1か所。	40 cm ² 以内で1か所。	20 cm ² 以内で1か所。

※1 それぞれの大きさ(サイズ)は着用前の面積とする。採寸方法は正方形または長方形とみなし、縦×横で面積を求める。それぞれの面積は最大を示し、その範囲内であれば大きさに規定はない。

※2 ワンピース水着の場合は、ウエストより上に1つ、ウエストより下に1つ許され、ツーピース水着の場合は、上部に1つ、下部に1つが許される。ただし、これらの商標名は相互に隣接しておくことはできない。

14 クラス分け

- ・ クラス分けは競技中の観察も含まれる。クラス分け委員の指示に従うこと。
- ・ 適切な医学的情報の提出がない場合、あるいは持てる能力を発揮しない場合などで「クラスなし(非協力的, 意図的な虚偽申告等)」と認定された場合、記録は認められず、メダルは返却しなければならない。また、今大会以降の競技会(ジャパンパラ, 日本パラ水泳選手権大会等)には出場できない。
- ・ 競技観察の結果、出場したクラスから変更になった場合、変更後のクラスでの記録となる。
- ・ クラス分けについては JPSF ホームページ掲載クラス分け規則 2019 版を参考にすること。

15 傷害のある選手

- ・ 傷口が開いていたり、テーピングや絆創膏を必要とする傷害のある状態で出場を希望する選手は、事前に招集所に申し出たうえで、JPSF メディカルスタッフの許可及び審判長の承認を得なければならない。許可及び承認を得ないで出場した場合は失格となる。

16 国際登録選手と記録の公認

- ・ IPC のライセンスプログラムに基づいて、国際選手登録をした選手については、WPS へ記録を報告する。

17 その他

- ・ 予選と決勝の間に休み時間をとる。9月21日(第1日目)の決勝開始前(15時15分～)に開始式を行う。
- ・ 会場における事故等については、応急処置のみとし、その他の責任は負わない。
- ・ 室温は25度～27度位、水温は28度位とする。
- ・ 本大会では、スペイン、韓国、シンガポール、オーストラリア、ラオスから選手が参加する予定である。
- ・ 大会終了後、引き取りがなかった記録証については主催者で処分するので、必ず持ち帰ること。
- ・ 忘れ物については2週間、主催者で保管し、期間を過ぎると処分する。